

WWF ジャパン 2017 年 11 月 3 日

### 天然ゴム業界にサプライチェーン全体の変革を呼びかける（翻訳）

天然ゴムはその需要の伸びに伴い、今後数年で植林地が増え、森林や人々の権利に重大な影響を及ぼす可能性があります。WWF は天然ゴムの生産者やタイヤメーカー、自動車メーカーに対し、「森林破壊ゼロ方針」を策定し、天然ゴムを持続可能な資源にするための協働を呼びかけています。

適切な管理が行われれば、天然ゴムは地球全体にとって環境的にも社会的にも、そして経済的にもとても有益な資源になり得ます。

天然ゴムは再生可能な資源であり、医療分野やタイヤ製造業をはじめとする工業分野でも欠かせない原材料のひとつです。毎年 1,200 万トンが東南アジアを中心とする世界中で生産され、そのうち 75%以上がタイヤ産業で利用されています。

天然ゴムは労働集約型の産業でもあり、600 万世帯（世界で 3,000 万人）の生計をささえています。栽培されているゴムの木は効果的な二酸化炭素の吸収源でもあり、成熟した樹齢 30 年のゴムの木の植林地は 1 ヘクタールあたり 250 トンの二酸化炭素を吸収します。さらに、ゴムの木は伐採された後も有効に活用され、木質が良いため家具に加工することも、バイオマスの原料にすることもできます。

一方で、世界の自然林は熱帯雨林を中心に毎年 650 万ヘクタールのペースで減少しています<sup>1</sup>。森林破壊の大きな原因のひとつが一次産品の生産地開発であり、先住民や地域コミュニティ、労働者の権利侵害につながることも少なくありません。天然ゴム以外の多くの一次産品では、持続可能な利用のための基準が確立されていますが、天然ゴムに関しては、産業レベルでの基準がまだ十分に定められてはいません。世界中の天然ゴムの生産と消費量は過去 40 年間で倍増しており<sup>2</sup>、2050 年までに路上を走る車の数が現在の 2 倍になるという予測に照らせば<sup>3</sup>、今後更なる生産の増加が見込まれています。

天然ゴムの需要の多くをタイヤ産業が占めることから、タイヤメーカーと自動車メーカーは市場を変革し、有益かつ社会的・環境的に持続可能なものとするための重要な役割を担っています。一方、天然ゴム生産の 85%は小規模農家が担っており、この変革の中で生産方法を変えていくには、こうした農家との緊密な協力とサポートが不可欠です。

---

<sup>1</sup> FAO “Global Forest Resources Assessments” <http://www.fao.org/forest-resources-assessment/en/>

<sup>2</sup> International Rubber Study Group <http://www.rubberstudy.com/default.aspx>

<sup>3</sup> IMF, 2008 年比

従って、サプライチェーン全体でグッドプラクティスを拡大し、地球規模で効果をあげていくことが早急に求められています。

この2年間 WWF とパートナー団体・企業は、サプライチェーン各所のキープレーヤーと協働し、業界全体に変革をもたらす天然ゴムを持続可能な資源とするためのイニシアティブを進めてきました。

タイヤメーカーの中には、すでに他社に先駆けて天然ゴムの持続可能な調達についての方針をまとめ、使用する天然ゴムの原産地を特定するツールを開発している企業もあります。また、自動車メーカーの中にも、サプライチェーン全体において森林破壊ゼロと人権・労働者の権利保障を掲げるタイヤ調達ガイドラインを定めると発表している企業もあります。

このように、関係企業・団体は天然ゴムの生産がこれ以上環境や社会に影響を与えないための取り組みを開始しています。しかし個々の企業や市民団体の取り組みだけでは、この重大な課題を解決するのに充分ではありません。WWF は、サプライチェーンすべての関係者に対し、この問題に共に取り組み、天然ゴムを持続可能なものにするために最大限努力することを呼びかけます。